

◎山行期日：2019年8月4日(日)

◎メンバー：M.K(L)、T.F

「夏は沢」と、かつては夏は良く沢に行ったものだ。奥多摩日原水系・鷹ノ巣谷、昔は何度か溯行しており、20年?ほど前はソロでも二度溯行したことがある。猛暑が続くので久しぶりに鷹ノ巣谷に行きたくなったが、加齢などによる体力・身体能力の低下があり、案じられる。そこで昨年、源次郎沢、セドノ沢左股・右俣、新茅ノ沢などでリーダーを引き受けて貰ったKさんに相談してみたところ、快諾を得たので二人で行くことに。

巳の戸橋を渡って日原川に降りるとすぐ先で鷹ノ巣谷に出会う。この河原で身支度を調える。改めてザックを担ぐと、意外と重い。荷を厳選しもっと軽くしてくれば良かったと反省。重いと体力を消耗する、遅くなる、バランスも悪くなるなどと、良い点は何も無い。

1年ぶりの沢で勘が鈍っている。

橋を潜ってスタートした。すぐに最初の難所がやってきた。幅1m程の小滝を飛び越えられれば簡単だが、着地点は上りの岩斜面、滑ればドボンである。かつては飛び越えた記憶もあるが今の小生にはとても無理、・・・「巻きましょう」とKさんに身振り訴え、右から巻いた。

この先で堰堤を越えていくと、3段12mの滝が現れた。深そうな釜を持っていた。Kさんはロープを引きながら上手に右側からへつって釜を回り込み、上に登って行った。やがて小生の番になった。へつっていくと、・・・アツツ!と思った時には「ドボン!」と、スリップして見事に釜、滝壺に落ちてしまった。ザックが浮き袋になったため、身体は浮いた。ロープに引っ張られて岩に取り付いた。そして慎重に登った。暑かったのがドボンのおかげで涼しくはなったが、やはり身体が思うように動かず、バランスも悪いことを実感した。



(3段12mの地藏の滝)

小滝をいくつか越えて行くと、くの字の滝が現れた。水流を避け右の大きな岩に取り付くとテープスリングの残置があった。上からロープで確保して貰いながら、このスリングをアブミにして乗り越えた。昔は残置スリングは無かったと思うが、どのようにして越えたのか記憶がない。

やがてハイライトの大滝に到着。やはり大きい!落差20mほどだが、大量の水を落としており迫力がある。登攀ルートは右の壁、ピレイ用のリングボルトが二つ、健在であった。まずはKさんがリードで登る。順調に登って行き、やがて小生の番になった。ここは「簡単だった」覚えがあるが、取り付いてみると下部は今の小生にはそんなに簡単ではなかった。中間あたりから易しくなり、ルンルンと登れた。

大滝の上は、かつては直進する金左小屋窪を溯行して、最後は笹藪をこいで石尾根に出たが、今回はガイドブック(「東京基点沢登りルート120」宗像兵一編著)にしたがって、右から出会う水の戸沢を



(落差20mの大滝)

溯行する計画。25,000 図を読むと、稲村岩尾根のヒルメシクイノタウ付近に出るはずで、これを行くことにする。この方が下山が楽。

ワサビ田の跡や小滝を超えていくと、やがて水が涸れ、二俣に着いた。ここは標高約 1,300m。大滝の上から標高差約 400m 登ってきたことになる。かなり疲れたが、地図を読み、ヒルメシクイノタウを目指して右股を詰める。標高差はあと 260m ほどだ。

沢の詰めはどこもそうだが、上に行くほど急斜面になる。その上に足元はガラガラ、軟弱などで決まらない。歩きにくい健脚のKさんはドンドンと行く。小生も頑張って一步一步、歩を進める。顔面からは汗が吹き出し、したたり落ちる。多数の小さな虫が顔の周りを飛び回る。何か所か刺された。一度は耳の中まで入られて閉口した。虫の忌避薬を噴霧したいが、忌避薬はザックの中、これを取り出すには一度ザックを下ろさなければならない。しかし足元は急斜面でザックを下ろせるような場所はない、トップとの距離が開くので止まる余裕もない。我慢してハアハアと荒い息を吐きながらひたすら登る。やがて傾斜が無くなった。・・・と、先を行くKさんより「登山道に出ました！」との嬉しい声。ヒルメシクイノタウの少し山頂寄り、この尾根で唯一、平坦に近い鞍部状のところであった。狙ったとおりのところに出た。

すぐ先のヒルメシクイノタウでしばし休憩、装備を解いて下山に備える。下りはじめると最初は快調であったが、足が攣ってしまった。68 番を飲んで一休み。急な詰めが長かったのが堪えたようだ・・・。Kさんに先行して貰って、足にあまり負荷をかけないようにゆっくりと下る。稲村岩のコルで待っていて貰ったが、休みたいので、ここからも先行して貰う。日没に備えてザックからヘッドライトを取り出して準備、ゆっくり飲んで食べる。しばらく休んで「ヨシッ、行くぞ！」と、腰をあげた。

沢沿いの道に着く前にライトが必要となったが、稲村岩尾根はトレーニングで年に何度もピストンしているので、ライトさえあれば問題はない。先行するKさんが時々振り返ってライトをみせてくれるので、距離は大きく開いているが、お互いに安心だ。

やがて巳の戸橋に到着。ここでもKさんが待っていてくれた。あと車道までわずかなので、二人で車道へと歩を進めた。

鷹ノ巣谷は今の小生には、ちょっと長すぎたと思う。Kさんには今年の丹沢の沢に続いて大変お世話になった。

<当日のコースタイム（遅いので参考にはなりません）>

- 9:15 登山道入口（中日原）
- 9:20 鷹ノ巣谷出合（入渓装備準備）
- 9:40 鷹ノ巣谷入渓
- 9:50 「地藏の滝」（写真）
- 11:00 3段 12M 滝（滝つぼ）
- 11:20 3段 12M 滝上
- 13:06 「くノ字滝上」（テープアブミあり）
- 13:30 大滝の下
- 13:50 大滝の上
- 14:00 水ノ戸沢分岐
- 16:00 水ノ戸沢 奥の沢分岐
- 17:20 稲村尾根上へ
- 17:25 ヒルメシクイのダウ（1562m）
- 18:55 稲村岩のコル
- 19:45 登山道入口（中日原）